

事例研究

安達 賢二

株式会社HBA

経営管理本部 本部分

エキスパート

要求仕様から利用品質～ソフトウェア品質特性へのリバース結果に基づく要求仕様レビュー

～利用者に喜ばれる・役立つシステムの構築に向けて

講演概要

システム開発の上流工程では要求分析に基づき「要求仕様書」が作成され、レビューによりその適切性を確認することが多い。しかし、多くの場合「要求仕様書」には要求分析結果である”システム仕様”だけが記載されていたり、システムにより解決すべき事項や解決後の状態（システムゴールやユーザゴール）が不明確なまま、分析・検討過程が何も表現されていないなど、レビューによる適切性判断（主に、妥当性確認）が難しい状態であることが多いと推察している。

当初からこれらの事項を明確化したうえで要求仕様書に記載することが理想ではあるが、実務ではそうできない理由や背景にあふれており、今後も上記のような結果だけを示した要求仕様がまかり通る可能性が高い。

そこで、実務の現場で提示された「要求仕様書」の内容から、利用時の品質（利用者像・利用時コンテキストを含む）やソフトウェア品質特性をリバースした情報をもとに「要求仕様書」レビューを実施し、的確なフィードバックを提供する方法を提案する。

もともとはテスト設計方法論を検討する過程で生まれたものであるが、システム導入により解決する課題や、求められるソフトウェア品質特性などを階層的に整理・明確化することで、要求仕様の適切性を判断する根拠が明確となるだけでなく、システムに対する非機能要求事項の明確化、利用者の課題に対するITシステムと人間の適切な役割分担の採用、過剰な機能付与・機能不足の防止、システム稼働終了までのライフサイクルを意識したシステム開発の促進、などの効果が期待できる。